

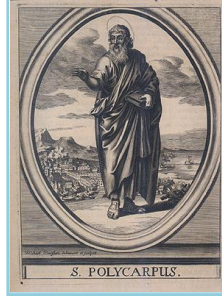
2月23日

## 殉教者主教ポリカーブ

Πολύκαρπος

(70頃～155頃)

～12弟子の直接の弟子～



「ポリュカルボス」

人名辞典ではポリュカルボスと表記される彼は、現在のトルコの西海岸にあたるスミルナの主教であった。12弟子のヨハネの弟子だったという伝承もあり、使徒教父の一人であると言われる。エイレナイオスによれば、若いころポリカーブと話した時に、ヨハネやイエスの目撃者と出会ったと言っていたらしい。

また107年にアンティオキアのイグナティオスが処刑されるためローマに護送される途中に、ポリカーブは温かく迎えたという。

ポリカーブ自身は手紙による宣教をしていたとされるが、現存するものはフィリビ教会にあてたものだけである。しかしその文面から、誰に対しても憐れみの心を持ち、迷った者を正しい道に連れ戻そうとする彼の姿がみられる。

155年頃、ポリカーブはローマの司教アニケトゥスと復活節の日付に関する論争のため、ローマに行く。そこで彼はグノーシス主義者やマルキオン主義者といった異端とも対決していく。

そしてローマから帰って来るのだが、当時のキリスト教は迫害をうけており、彼が主教をしていたスミルナもローマからの迫害を受けていた。ある時、十数人の信者が捕らえられ、競技場で猛獣に殺される。そのとき見物していた群衆は、殺された

人たちの中にポリカーブがいないのを知って騒ぎ出し、早く捕まえて死刑にするよう、訴える。

数日後、隠れ家から見つかり処刑場に連れて来られたポリカーブに対し、知事は「キリストを呪ったら今すぐに自由にしよう」と提案するが、彼は「私は今まで86年間キリストにお仕えてきたが、一度も彼から悪いことを教えられなかった。それなのにどうして私の王である救い主を呪えるだろうか。私はキリスト者です」と答えた。

この返答に怒った知事はポリカーブを火あぶりの刑にするように命じるが、柱にくくりつけられ火が体全体にまわる中でも、彼は自分が先人達と同じように殉教できる恵みを神に感謝していたと「ポリュカルボスの殉教記」は伝える。(Y)

### <特禱>

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者主教ポリカーブに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。

アーメン